

No.	書名	著(編)者名	出版社	ISBN 又は 出版年	選書で想定する対象者				推薦理由 (200文字前後を目安)	推薦書に関する図書の情報(3~5冊程度)				備考	
					推薦者資格・氏名		学 年	配架(希望)先		書 名	著(編)者名	出版社	ISBN 又は 出版年		
								駿河台 校舎							船橋 校舎
1	道路の日本史	武部健一	中公新書	2015	教授	鈴木 圭			邪馬台国の時代に幅12mの道路と、通信用の駅馬制度が整備され、家康の時代に軍事優先から利便性を重視して整備を進める。名神高速道路の計画・実施者が語る生きた日本の道路史である。	道のはなし I	武部健一	技法堂出版	1992		
										道のはなし II	武部健一	技法堂出版	1992		
										中国名橋物語	武部健一	技法堂出版	1987		
2	日本史の謎は「地形」で解ける	竹村公太郎	PHP文庫	2013	教授	鈴木 圭			京都が日本の都となったのは何故か。頼朝が狭く小さな鎌倉に幕府を開いたのは何故か。関ヶ原勝利何故か。日本全国の「地形と気象」を知る河川技術者が歴史の専門家ではない視点で、日本史の様々な謎を解き明かす1冊。	日本史の謎は「地形」で解ける 文明・文化篇	竹村公太郎	PHP文庫	2014		
3	国土と日本人―災害大国の生き方―	大石久和	中公新書	2012	教授	鈴木 圭			筆者は、建設省の道路局長、国土交通省の技監を経て、現在は、国土開発研究センターの理事長であり、土木学会の会長である。その立場から、日本の国土の地形的・社会的な特徴を明らかにし、大地震災害に見舞われ、財政危機にある今、海外に伍して豊かな国土を築き、日本人が活力を取り戻すために何が必要なのかを提言している。	国土学再考					
4	首都水没	土屋信行	文春新書	2014	教授	鈴木 圭			筆者は、東京都のエンジニアで、江戸川区の河川部長を経験し、河川行政に関して、歴史・現況の課題に精通した人物である。「ゲリラ豪雨が山の手台地にやってくると、水害を起こす可能性がある」と指摘する。ひとたび東京で洪水が起きると、「東京の地下を繋いでいるのは地下鉄だけではなく、共同溝も洪水時に浸水を広げていく可能性」があるという。						
5	景観と意匠の歴史的展開	監修:馬場 俊介岡田 憲久、小 林一郎、 佐々木 葉、鈴木 圭	信山社サ イテック	1998	教授	鈴木 圭			インフラストラクチャーに関するデザインの歴史的な展開を縦系に、土木構造物、都市、ランドスケープについてまとめた書物。その共通のテーマが土木史であり、デザインの本質を理解するには、多くの「なぜ」を究し、それに答えられるのが「土木史」である、という思想で書かれている。						

18	水理学史	H.ラウス、 S.インス 著、高橋 裕、鈴木 高明訳	鹿島出版 会	1974	教授	鈴木 圭					18世紀の水理学の発展が、水工技術に大きく 貢献した。本書は古代、中世、17、18、19世紀 の水理学の歴史を記述し、かつ、補章において 日本における水理学の歴史を紹介している。								
19	橋 私のあの橋この橋	新日本技 研(株)創 立周年記 念企画	学芸通信 社	1994	教授	鈴木 圭					橋梁の研究・実務に携わる第一線の学者・技 術者が、小さな流れを渡る橋から海に架ける橋 まで、内外の有名、無名の橋を取り上げて、思 い出の橋を語ったもの。橋梁技術の側面史とし ても貴重な価値がある。								
20	技術屋の心眼	E.S.ファ ガーンソ ン著、藤原 良樹＋砂 田久吉訳	平凡社	1995	教授	鈴木 圭					心眼は、思い起こされた現実のイメージと、思 い描いた工夫のイメージが存在する場所であ り、信じられないほどの能力をもつ不思議な器 官である。この思考様式の重要性を説いた本。								
21	橋の造形学	杉山和雄	朝倉書店	2001	教授	鈴木 圭					橋梁技術者や景観デザイナーがデザインを行 う際に必要なデザインの言語や文法、修辭法と しての造形の基礎について解説した本								
22	風景のとらえ方・つくり方 —九州実践編—	小林一郎 監修	共立出版	2008	教授	鈴木 圭					風景デザインを実践するにあたり、現場を第一 として、デザインの実践と暮らしの実践を考え た、精神的な本である。少数の優れたデザイ ナーによる実践ではなく、住民を中心とした多く の人々の参加によって、地域づくりを実践した 内容である。								
23	広場のデザイン	小野寺康	彰国社	2014	教授	鈴木 圭					著者は、門司港レトロ地区環境整備や、日向 駅前広場設計、道後温泉本館周辺地区のデ ザインを担当した建築家であり、世界の広場の デザインや、日本の賑わいの都市の5原則に ついて解説した。								

30	シェアする道路-ドイツの活力ある地域づくり戦略-	エルファ ディング・ スザンネ 浅野光行 卯月盛夫	技能堂出 版	2012	教授	下川澄雄				魅力と賑わいのある交通空間の再編について は、既に欧州では種々の議論がなされ、多くの 実践的取り組みがなされている。本書ではドイ ツでは中心として導入された。これに関係する 先進的な施策を取り上げ、その背景や着眼 点、法的制度、調整プロセスなどを含めてわか りやすく解説している。							
31	橋梁デザインの実際	鈴木 圭	コロナ社	2018	助教	江守 央	1年生		○	橋梁デザインは、工学とデザインの両者を理解 することが不可欠であり、これまでにない独創 性が求められることが多い。特に、設計競技で は、これまで誰も考えたことのなかったコンセ プトを提案し、新しい材料を組合せ、構造形式を 提案することが競争に勝つための条件の一つ である。では、どのようにして、それを身に着 けるかということであるが、材料や橋の歴史を同 時に学ぶことができ、デザインの実際を理解で きる本である。	1	BRIDGE 風景をつくる 橋	大野美代子	鹿島出版 会	2009	橋梁デザイン の実際は、交 通システム工 学を専攻する エンジニアを育 成する基本書 である。	
					教授	関 文夫	2年生以 上		○		2	BRÜ CKENBAU 博物館で学ぶ 橋の文化と技 術	ディルク ビューラー編	鹿島出版 会	2003		
					教授	鈴木 圭	全学年		○		○	3	材料力学史	S. テイモシ enko	鹿島出版 会		2007 (1974)
												4	建設技術史	H.シュトラウ プ	鹿島出版 会		1976
												5	空間時間建築 2	S.ギーディオ ン	丸善		1969